

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 12月 20日

事業所名 こばんはうす見沼教室

保護者等数(児童数)20 回収数 19 割合 95%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19件	件	件	件	・広いホールで子どもたちがのびのびできる ・外遊び室内遊び十分なスペース	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	17件	件	1件	1件	・送迎の際、運転手添乗1人ずつついている。 ・1人に対して多くの職員が関わっている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	18件	件	件	1件	・確認できていないため分らない	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19件	件	件	件	・危険がないような作りになっている	
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	19件	件	件	件		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19件	件	件	件		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	19件	件	件	件		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	19件	件	件	件	・カレンダーを見ると楽しいプログラムが多く固定曜日以外でも参加させたい	
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3件	3件	2件	11件	・幼稚園などとの交流があれば子どもの刺激になっていい	
保護者への説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19件	件	件	件		
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	18件	件	件	1件		
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	14件	3件	1件	1件		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19件	件	件	件	・送迎時の今日の子ども様子を先生方から聞くのが楽しみ	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17件	件	件	2件	・育児の困りごと、アドバイスで資料等を頂けた ・以前、モニタリングする機会を設けて頂いたが、また実施してほしい	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	17件	件	件	2件	・保護者会の人数がもう少し多いといいな。 ・保護者会を開いていただき、他の保護者の方々と交流がもてた	
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19件	件	件	件		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19件	件	件	件		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	18件	件	件	1件		
非常時等の対応	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	19件	件	件	件		
	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	18件	1件	件	件		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	19件	件	件	0件	・活動企画で避難訓練をしていい頂いている。	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	18件	1件	件	件	・先生方は温かく毎回様々な活動を取り入れてくださり、子どもも楽しく利用させてもらっている ・毎回笑顔で通っている。先生方のことを信頼していて、活動も楽しそうです。	
	23	事業所の支援に満足しているか	19件	件	件	件	・いつも子どもにも適切な支援をして下さり、たくさんの成長を促している。 ・とても満足。親も子供も笑顔が増えた	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 12月 20日

事業所名 さいたま見沼教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7件	1件	人数が多いときは部屋を分ける。	部屋数をうまく利用し、子どもや場面に合わせて使用していく。
	2	職員の配置数は適切であるか	8件	件	多い時にはタスクに入り、少ない時には放デイのスタッフが来てくれている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7件	1件	朝の支度をする部屋と活動をする部屋を分けているため、メリハリが付きやすい。	部屋ごとに、お支度部屋、活動部屋、お昼寝部屋、運動部屋等うまく使い分けて、子どもにも分かりやすく出来ると良い
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8件	件	毎日掃除、消毒を行っているためきれい。人数が多いときや、落ち着かない時に部屋を分けて活動することができる。	引き続き、清潔を保ちたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7件	1件		継続していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8件	件		今後も継続していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6件	2件		今後も継続していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5件	3件		継続していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8件	件		感染症研修や発達研修、リスクマネジメント研修を行っている
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8件	件		保護者の意見を踏まえたうえで、分析をして個別支援計画書を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8件	件		継続していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8件	件		継続していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8件	件		継続していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7件	1件	組まれた内容の中で、リーダーのスタッフが立案し、朝の打ち合わせで相談して決める。	継続していく。多くのスタッフの意見を引き出し、同じ目標に向けて支援ができるとう良い。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8件	件	インターネットや本を利用し、新しいものを取り込んでいる。前日のプログラムを確認したり、スタッフ間で話し合いを設けている。	子どもに合わせた活動を考え、アイデアを出して楽しめるよう工夫する。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	8件	件		継続していく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8件	件	支援開始前、当日の活動内容や役割分担、個別での課題等の打ち合わせを行う。	継続していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	8件	件	支援終了後、振り返りで気づいた点や今後の支援方法等を共有する。	継続していく。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8件	件		日々の記録、事前の打ち合わせや、その日の子どもやスタッフの動きや活動内容など、適切であったかを確認しあひ。反省、改善を図っている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7件	1件		半年に一度、モニタリング面談を行い、他スタッフとの共有や見直し等を行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7件	1件		継続していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7件	1件		継続していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4件	4件		継続していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2件	6件		継続していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8件	件	今後、取り組むべき内容	現在、幼稚園とは電話連絡を行い、幼稚園の様子、こぼんはうすでの様子を共有している。今後、幼稚園や保育園への見学、情報共有の機会を多く持つて、相互理解を図っていきたい。

保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7件	1件	今後、取り組むべき内容	放課後データベースと連携を取りながら、学校との連携を取っていきたいと思っている。児童発達支援センターと連絡を取り合い、情報共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5件	3件		現在、児童発達支援センターとの連絡やモニタリング、見学、お互いアドバイス等の実施している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3件	5件	今後、取り組むべき内容	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4件	4件		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8件	件	送迎時や、電話で連絡を行い情報共有している。	スタッフ同士の共有を基に、保護者への伝達を促している。今後も継続。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6件	2件		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8件	件		継続していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8件	件		継続していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7件	1件		継続していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7件	1件		継続していく。
非常時の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8件	件		継続していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8件	件	毎月のお便りで発信している。行事、活動などわかりやすい。	今後も継続していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8件	件		継続していく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8件	件		継続していく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5件	3件		継続していく
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8件	件		緊急時に対応できるよう、様々な場面を想定し、訓練を行っていききたい。 9月に感染症研修を実施。2月に避難訓練実施予定、
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8件	件		今後、行っていく予定	
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8件	件		てんかん発作の児童のリストや指示書を作成。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6件	2件		アレルギーがある児童のリストを作成	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8件	件	ヒヤリハット作成実施している。	全員がどう記載するのか、どこや誰に危険があるのか把握するためにも、ヒヤリハット月間を定めてもよい	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7件	1件		今後、研修を行う予定	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4件	4件		さらなる職員への周知、そしてそれを継続していく。	